

# 平成26年度の設備導入予定箇所及び条件の整理

資料6

## 【H26事業の進め方前提】

- ◎ 施工期間が短いため、内部による設計で事業を進められる場所であること ⇒ 導入実績のあるもの
- ◎ H25年度に内部設計により、学校の校舎屋上に太陽光パネルを設置した ⇒ 2の導入実績参照

## 【H26事業場所の条件】

- ① H26年度までに耐震改修が終わっている
- ② H26年度までに屋上防水工事完了している
- ③ 屋根貸事業の対象でない
- ④ 建築基準法55条・56条(高さ制限)にあたらぬ
- ⑤ 避難所運営委員会が設立されている

### 1 平成26年度の導入場所候補(この中から2カ所を選定)

番号	施設名	防水工事 実施年度	備考
1	椿森中学校 校舎屋上	H23	H27年度に体育館の耐震や照明の改修を予定しており、配電接続はこの工事終了後となる。H26年中に工事を開始しても、電源の接続に至らない。
2	あやめ台小学校 校舎屋上	H24	校舎の配置は東西(南向き)になっており、パネルの配置には理想的である電気室の配置が体育館及び校舎とで離れているため設備配置方法の整理が必要
3	登戸小学校 校舎屋上	H25	校舎の配置は東西(南南西向き)になっており、パネルの配置には理想的である津波避難場所としての指定を受けているためパネルの設置場所に精査が必要(屋上面積約600平米に対してパネルの設置面積約100平米:10kW)
4	大宮中学校 校舎屋上	H25	校舎の位置関係が東西(南向き)でなく、パネルを載せるうえで、配置方法や想定発電量の精査が必要(工事費が高くなり費用対効果が下がる可能性高い) 電気室や蓄電池の配置場所と体育館が離れており、工事費用が高くなる傾向にある

### 2 平成25年度における太陽光発電設備の導入実績(内部設計による)

番号	施設名	防水工事 実施年度	H26事業において参考としたポイント
参考	都小学校 校舎屋上	H22	※ H25年度に自主設計により導入を実施した場所(太陽光パネルのみ) ○校舎の配置が東西(南向き)になっておりパネルの配置がしやすい ○高さ制限がなかったためパネルに30度勾配をつけられ発電量が確保されている ○災害時には太陽光パネルの電気を、電話や事務室へ供給できるように配線し活用